

近藤太郎のインタビュー

「色々なハナシしてもらっても良いかや〜?」VOL.1



さあ！始めました！

新シリーズ・近藤太郎のインタビュー

「色々なハナシ

してもらっても良い

かや〜?」

Vol.1

このシリーズはマルオカ工業で働く人に色々聞いちゃう、そんなインタビューです。今日は事務で最近働き始めた女性の社員のY.K.さんにインタビュー。マルオカに働きにくる事になった経緯や働いていて感じる事、また木管に住む事などたくさんのお話を聞くことができました。インタビューはアルバイト日記でお馴染みの私、近藤太郎が勤めさせていただきます！それでは早速。

太郎「今日はKさんよろしくお願ひします。」

K「よろしくお願ひします。」

太郎「Kさんはマルオカ工業で働いてどのくらいですか？」

K「え、2021年の2月半ばから働いているから1ヶ月半経ってないくらい……」

太郎「慣れてきましたか？」

K「慣れてきました！」

太郎「はい、それはいいことですね。えくとKさんが木管に来た、もしくはマルオカ工業で働き始めたきっかけはなんですか？」

K「え、結婚を機に来ました。」

太郎「マルオカ工業に来たのも結婚が機にということですか？」

K「そうですね！はい！」

太郎「ちなみに前職は？」

K「前職は美容師をしてみました。」

太郎「前職は美容師と……出身地はどちらですか？」

K「愛知県名古屋府です。」

太郎「じゃあ都会から来られたと、」

K「ここよりは都会ですね笑」

太郎「そうですね、どうですか？その名古屋なんて大都会じゃないですか！その大都会から自然が多い、良い言い方をすれば自然環境がいいけど、物やお店が少ない場所に来てどうですか？」

K「まず気候に慣れるのに時間がかかっている。」

太郎「それはどういう気候ですか？」

K「寒い、雪とか、車で来るんですけど朝凍ってたりすることが今までなかったから……なんか生活リズムも変わりのつ、起きる時間



と寝る時間が変わったというか？」

太郎「ん？それはどういうことですか？」

K「なんだろうなあ、みんな寝るの早いなだあとと思って」

太郎「あ、こっちはね、暗くなるのが早いってことですか？」

K「そうですね、周りの暗くなるのが早いというか、大体9時とか10時にはもう寝ちゃうみたい。朝6時くらいには起きちゃうみたい。」

太郎「それはつまりいいことですか？」

K「いいことですね。もはや10時には眠たい。」

太郎「健康的になってるってことですか？」

K「そうですね。」

太郎「逆に不便だと思っことはありますか？」

K「いっぱいあります。買い物するのにも移動するのに時間がかかるから、ある程度考えて、ウィンドウショッピングみたいな事が出来なくなっちゃった。」

太郎「あ、なるほど。でもそれは逆に言えばいい事ですね。それはなんか面白いな。目的を持たないと無駄」

時間と無駄なお金を使って事ですね。」

K「そうですね。」

太郎「なるほど。では質問に戻りますが、今マルオカ工業でどんな仕事をしていますか？」

K「今はマルオカの事務をしています。」

太郎「ふんふんふん、マルオカの事務とは具体的に言うって？」

K「パソコンで注文の伝票の入力をしたり、電話で対応したり、あとはネットの更新みたいな。」

太郎「あく今マルオカ工業はネットにも力を入れてますからね！その今の仕事でマルオカ工業ならではなあと何かありますか？」

K「やっぱり歴史が深い会社だから、置いてあるものとかも歴史があつて、だからちょっとデジタルに寄りたいう気持ちもある。でもそれはモノを長く使つていい事なんだと思うんだけど。例えばフロッピーをまだ使つてたりする笑」

太郎「フロッピーー！僕も知らないな。」

K「フロッピーって知らない？パソコンにビュッって入れる。薄っぺらい」

太郎「ポジタイプに考えると、」

K「モノを長く使っている会社」

太郎「それは自分にとっては楽しい事ですか？」

K「これからはデジタルに進んで行きたいなあ〜っていうのはある。新しいのが良いって事じゃないけど仕事の仕方、もっともスムーズに出来たら良いなあ〜っていう、」

太郎「あ〜」

K「私もまだ1ヶ月半しか働いてないから、今後変えられる事は変えていきたいな〜という気持ちです。」

太郎「だからあれですね。勤めて1ヶ月半なのにもう、この会社の事をめちゃくちゃ考えてるって事になりますね！それはすごい事ですよ。」

K「いやいやいや、みんなが楽になるように。」

太郎「普通ならみんな萎縮しちゃうじゃないですか。1ヶ月半なんて。」

K「いや、でもまだ毎日慣れるのに苦しい。慣れない事が多すぎて、」

太郎「前職が美容師だったからですか？」

K「そう！美容師だと体を動かす仕事だから、結構今は逆の事をしている、動かないで落ち込むのだけだから。苦しい時もある。」

太郎「ふーん。」

K「慣れるまではちょっと苦しいですね。」

太郎「それはどういう風に解消していきたいとかありますか？」

K「まあ慣れることが一番大事なのかなっていうのもあるし、出来る限り効率的の良い仕事をしていって自分に余裕を持たせるような仕事をしていきたい。色んな事に対応出来るような、その為色々なデジタル化する事によって無駄な事も少なくていけるのかなあ〜って考えてる。」

太郎「なるほど。今事務の仕事に関して色々聞きましたが、マルオカ工業で働いていて楽しいこと、大変

「色んな事が出来るような会社になつたらなあ〜っていうのもあるし、自分がそれを率先してやりたい！固定概念を壊したい！」



現在も使用しているフロッピー↑

「事はありますか？」

K「年齢層が幅広いから、「コミュニケーションが大変な事もあるけどでも色んな年代の人と接する」ことが出来るから楽しいかもしれない。」

太郎「なるほど。」

K「ジエネレーションギャップとかもあるし、こういう人ってこういう考え方なんだって色々吸収できることもあるし、」

太郎「それは人数が多すぎず、丁度良い人数だから深く関われるって事ですよね？」

K「そうですね。恥ずかしがり屋の人が多い気がするけど、意外に話してみると優しい人だったりとかそういうのを感じたり、」

太郎「職人肌の人が多いですね。」

K「そうですね。元々私も職人みたいなものだったから、なんとなく分かるんだけど、」

太郎「でも美容師はお客さんと話す仕事じゃないですか。だからちょっと違つたりもしますよね〜」

K「そうですね。」

太郎「今後はもっと話すような仕事をしていきたいか思つていたりしますか？」

K「もちろん。もっとコミュニケーションを取れるような感じにしたいとか、休憩とかも色んな休憩所に行きたいか思っているし笑」

太郎「今回箇所がありますからね笑。では最後になりますが、「ここに住んでいる事やマルオカで働く中でこれから新しくチャレンジしたい事はありますか？」

K「なんか面白いことしたいなって思つて、元々は美容師として社会貢献したかったっていうのが木曾に来た目標でもあるんですけど、それをマルオカ工業の中で出来たらより良いのかな。

例えば美容師の免許を持っているから、駐車場で美容院をやったりとか笑。

色々やりたい事があつて、子ども専用の美容院をやったりとか、だからマルオカ工業以外でも美容師として活動したい。絵描きさんが絵を描くのと一緒で、切らないと切れなくなるので、」

太郎「つまり自分の今までやってきた技術とかそういうのも生かすって、」

K「マルオカ美容部を作る。」

太郎「あくそれはとても面白いですね笑。普通会社の中に美容院ないですもんね。」

K「でも楽々とかはあるんだ〜」

太郎「へえ〜、でも木曾に、それはすごいですね。」

K「人って見た目変わるだけでテンションが上がるから、そういうの楽しんで欲しい。それって名古屋から来た私だからこそ提案出来るのかなあ〜って、そういう役割も私にはあるのかなあ〜みたいな。」

太郎「マルオカで働きながら幅広く考えられているっていう事は、仕事だけに追われていないっていう環境でもあるって事ですね〜」

K「そうですね。色んな事が出来るような会社になつたらなあ〜っていうのもあるし、自分がそれを率先してやりたい！固定概念を壊したい！」

太郎「お〜」

K「マルオカ工業の仕事もしっかりやりながら、自分のやりたいこともやっていきたい！」

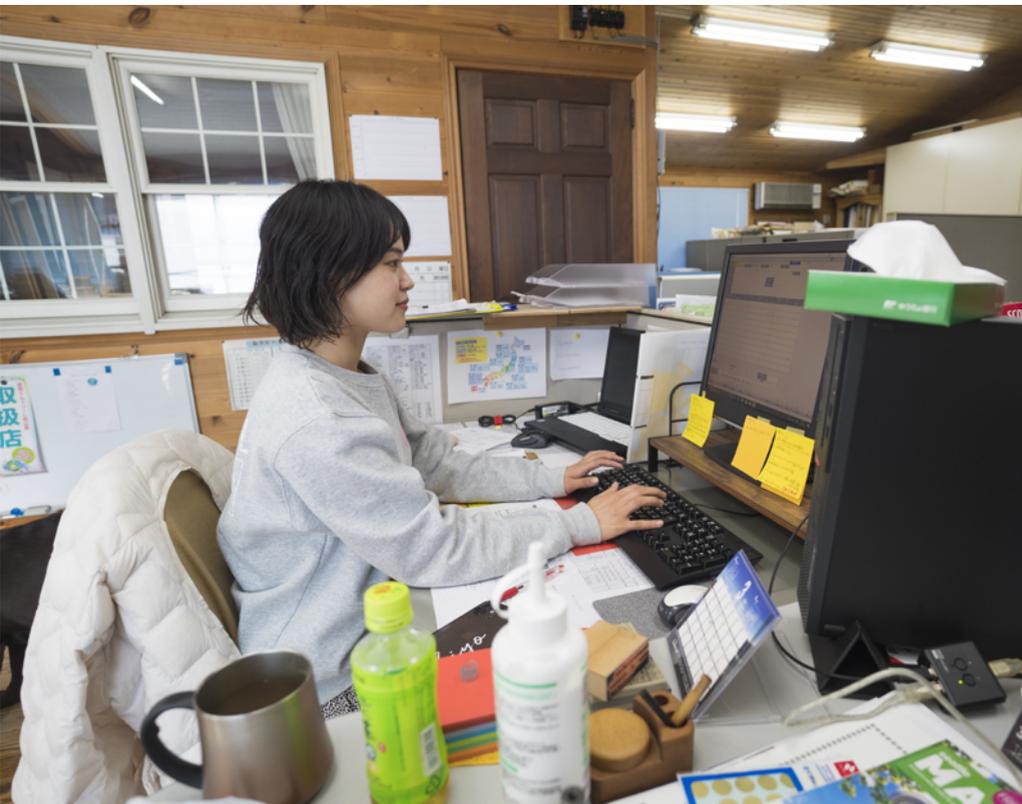
太郎「マルオカ工業はアーティストを支える会社でもあるけど、会社としてもそういう考え方でやって行きたいって事が伝わってるって事ですね！」

K「そうですね。社長からも伝わってます！笑」

太郎「今日はありがとうございました。」

K「ありがとうございます。」

Kさんは「大変な事もあるけど、それは周りのせいではなくて自分との戦いだから」と言っていて芯の強い方だなと改めて感じました。もちろん爆発しそうな時はカラオケをしたり、旦那さんにぶち当たって解決しているそうです。またマル君（飼っているラブラドルレトリバー）と沢山の自然の中散歩したり、綺麗な空気を吸う事も一つのリフレッシュなんだそう。なんだか健康的で微笑ましい情景が太郎の頭には想像できたのでした。



木祖村を散歩中の写真↑